

---

# I 自然と歴史

---

# 1 位置と面積

距離  
 東西 13.6km  
 南北 33.6km

面積  
 136.03 km<sup>2</sup>

市役所の位置  
 東経 133° 30′ 36″  
 北緯 34° 30′ 14″



# 2 市域の変遷

年 月 日	編 入 区 域	編入人口 (人)	編入面積 (km <sup>2</sup> )	総人口(人)	累計面積 (km <sup>2</sup> )
昭和26年4月1日	今井村編入			22,006	15.2
27年4月1日	金浦町と笠岡町合併(市制施行)		8.6	30,223	23.8
28年10月1日	城見村 陶山村 大井村 吉田村 新山村 神島内村編入	19,359	52.0	49,582	75.8
30年4月1日	神島外町 白石島村 北木島町 真鍋島村 大島村(柴木地区を除く)編入	21,109	32.5	70,691	108.3
35年4月1日	北川村編入	2,541	9.6	73,232	117.9
平成2年3月31日	笠岡湾干拓完成				
13年9月22日	笠岡の一部を中央町に変更				
20年4月1日	現在			55,920	136.0

### 3 旧町村別面積

(単位：km<sup>2</sup>) 4月1日現在

地区名	年					地区名	年				
	16年	17年	18年	19年	20年		16年	17年	18年	19年	20年
富岡	1.11	1.11	1.11	1.11	1.11	東大戸	4.18	4.18	4.18	4.18	4.18
笠岡	6.19	6.19	6.19	6.19	6.19	西大戸	1.45	1.45	1.45	1.45	1.45
中央町	0.12	0.12	0.12	0.12	0.12	吉田	4.41	4.41	4.41	4.41	4.41
一番町	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	関戸	1.48	1.48	1.48	1.48	1.48
二番町	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	尾坂	5.64	5.64	5.64	5.64	5.64
三番町	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	新賀	3.62	3.62	3.62	3.62	3.62
四番町	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	山口	5.16	5.16	5.16	5.16	5.16
五番町	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	走出	5.45	5.45	5.45	5.45	5.45
六番町	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	甲弩	3.90	3.90	3.90	3.90	3.90
七番町	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	大島中	4.95	4.95	4.95	4.95	4.95
八番町	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	西大島	5.75	5.75	5.75	5.75	5.75
九番町	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	西大島新田	0.75	0.75	0.75	0.75	0.75
十番町	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	神島	5.60	5.60	5.60	5.60	5.60
十一番町	0.34	0.34	0.34	0.34	0.34	横島	0.69	0.69	0.69	0.69	0.69
緑町	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	入江	0.35	0.35	0.35	0.35	0.35
春日台	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	神島外浦	3.94	3.95	3.95	3.95	3.95
新横島	0.17	0.17	0.17	0.17	0.17	高島	2.23	2.23	2.23	2.23	2.23
旭が丘	0.13	0.13	0.13	0.13	0.13	飛島	1.39	1.39	1.39	1.39	1.39
園井	2.11	2.11	2.11	2.11	2.11	白石島	2.88	2.88	2.88	2.90	2.90
今立	3.37	3.37	3.37	3.37	3.37	北木島	7.97	7.97	7.97	7.97	7.97
馬飼	0.82	0.82	0.82	0.82	0.82	真鍋島	2.49	2.49	2.49	2.49	2.49
広浜	1.32	1.32	1.32	1.32	1.32	鋼管町	5.46	5.46	5.46	5.46	5.46
絵師	0.67	0.67	0.67	0.67	0.67	美の浜	0.39	0.39	0.39	0.39	0.39
金浦	0.93	0.93	0.93	0.93	0.93	六島	0.84	0.84	0.84	0.84	0.84
吉浜	2.49	2.49	2.49	2.49	2.49	城見台	0.15	0.15	0.15	0.15	0.15
生江浜	0.82	0.82	0.82	0.82	0.82	港町	0.42	0.42	0.42	0.42	0.42
大河	1.34	1.34	1.34	1.34	1.34	西茂平	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07
相生	1.52	1.52	1.52	1.52	1.52	平成町	0.99	0.99	0.99	0.99	0.99
大冨	1.47	1.47	1.47	1.47	1.47	カブト東町	2.08	2.08	2.08	2.08	2.08
用之江	2.03	2.03	2.03	2.03	2.03	カブト中央町	2.39	2.39	2.39	2.39	2.39
茂平	3.32	3.32	3.32	3.32	3.32	カブト西町	3.52	3.52	3.52	3.52	3.52
有田	3.58	3.58	3.58	3.58	3.58	カブト南町	1.91	1.91	1.91	1.91	1.91
押撫	0.79	0.79	0.79	0.79	0.79	拓海町	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
篠坂	1.90	1.90	1.90	1.90	1.90	大井南	0.45	0.45	0.45	0.45	0.45
入田	1.92	1.92	1.92	1.92	1.92	美の越	0.21	0.21	0.21	0.21	0.21
小平井	2.60	2.60	2.60	2.60	2.60	<b>合計</b>	<b>135.99</b>	<b>136.01</b>	<b>136.01</b>	<b>136.03</b>	<b>136.03</b>

資料：総務課：総務課

#### 4 地目別土地面積

(単位：k m<sup>2</sup>) 1月1日現在

年	総面積	田	畑	住宅	池沼	山林	牧野	原野	雑種地	その他
平成 14 年	135.97	12.19	28.99	12.81	0.89	35.75	0.00	3.49	9.10	32.75
15	135.99	12.14	29.66	12.91	0.89	32.81	0.00	3.50	9.11	34.97
16	135.99	12.09	29.59	13.00	0.89	32.84	0.00	3.50	9.09	34.99
17	136.01	12.03	29.44	13.13	0.89	32.85	0.00	3.51	9.12	35.04
18	136.01	11.95	29.27	13.25	0.89	32.85	0.00	3.49	9.26	35.06
19	136.03	11.85	29.20	13.33	0.89	32.89	0.00	3.49	9.27	35.11
20	136.03	11.76	29.12	13.39	0.88	32.93	0.00	3.46	9.27	35.19

資料：税務課「固定資産概要調書」

#### 5 人口集中地区人口、面積及び人口密度

10月1日現在

年	地域 面積  A  (k m <sup>2</sup> )	人口集中 地区面積  B  (k m <sup>2</sup> )	国勢調査 人 口  C  (人)	人口集中 地区人口  D  (人)	全 市 に 対 す る 人口集中地区の割合  (%)		人口密度  (人)	
					面積	人口	全市	人口集中 地 区
					B/A×100	D/C×100	C/A	D/B
昭和 50	119.48	2.9	63,413	16,232	2.4	25.6	530.7	5,597.2
55	121.65	3.3	61,917	16,131	2.7	26.1	508.9	4,888.1
60	123.32	3.6	60,598	16,110	2.9	26.6	491.4	4,475.0
平成 2 年	135.87	3.6	59,619	14,902	2.6	25.0	438.8	4,139.4
7	135.92	4.1	60,478	16,798	3.0	27.8	445.0	4,097.1
12	135.97	4.2	59,300	16,798	3.1	28.3	436.1	4,038.0
17	136.00	4.1	57,272	16,682	3.0	29.1	421.1	4,039.2

資料：総務省統計局「国勢調査報告」

※ 人口集中地区とは、人口密度の高い調査区（人口密度が1平方キロメートル当たり約4,000人以上）が隣接して、人口5,000人以上を有する地区を言う。

## 6 気象概要

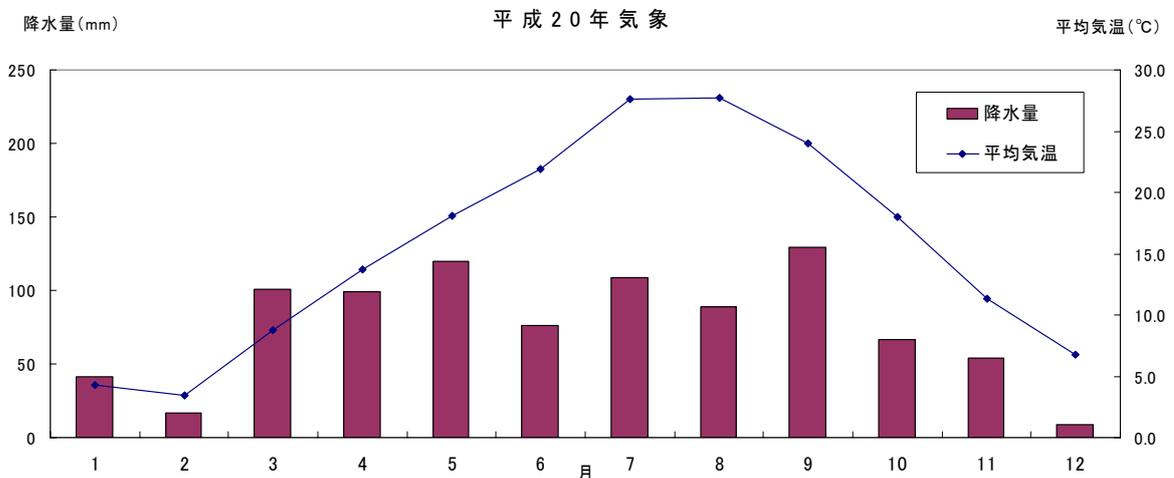
この表は、笠岡地域気象観測所（笠岡市十一番町4-3、笠岡カブト東町13番地）及び、岡山地方気象台（岡山市桑田町1-36）における観測値である。

年・月別	気 温 (°C)							降 水 量 (mm)		
	平 均			極				総 量	日最大	起 日
	平均	最高	最低	最高	起日	最低	起日			
平成 14年	15.7	20.3	11.4	35.1	7/28	-2.9	2/12	736	50	6/18
15年	15.2	19.8	10.9	33.7	8/6	-5.5	1/30	1,063	65	8/14
16年	16.1	20.7	11.5	36.3	7/30	-5.1	2/22	1,296	100	9/29
17年	15.4	19.8	10.9	34.8	7/20	-4.7	2/22	690	76	7/2
18年	15.4	19.7	11.0	36.3	8/7	-5.0	2/4	1,169	72	9/6
19年	15.9	20.7	11.5	36.1	8/16	-4.0	2/3	820	67	9/24
20年	15.5	20.2	11.1	36.0	8/9	-4.3	2/25	911	72	7/5
1 月	4.3	8.6	0.5	14.2	8	-2.8	2	41	15	4
2 月	3.4	8.7	-1.4	13.1	22	-4.3	25	17	10	3
3 月	8.8	13.9	3.3	19.2	12	-2.8	6	100.5	50	12
4 月	13.7	18.6	8.5	24.8	30	3.1	2	99.5	28	7
5 月	18.1	23.1	13.0	29.8	26	6.3	12	120	35	11
6 月	21.9	25.7	18.4	28.8	30	13.3	1	76.5	21	12
7 月	27.6	32.3	23.7	36.0	27	16.6	1	108.5	72	7
8 月	27.7	32.0	24.0	36.0	9	18.5	25	88.5	65.5	6
9 月	24.0	27.9	20.6	32.5	6	13.2	27	129	31.5	8
10 月	18.0	23.0	14.1	27.1	1	8.2	28	67	40	7
11 月	11.3	16.2	6.9	21.7	3	-1.3	20	54	12	9
12 月	6.8	12.0	2.1	16.1	4	-3.3	7	9	5	3

資料：岡山地方気象台

(注) ) は欠測を含む場合の平均極値。(欠測回数20%以下)

\* は極値が2つ以上ある場合、起日の新しい方を示す。



# 7 自然災害

平成20年3月31日現在

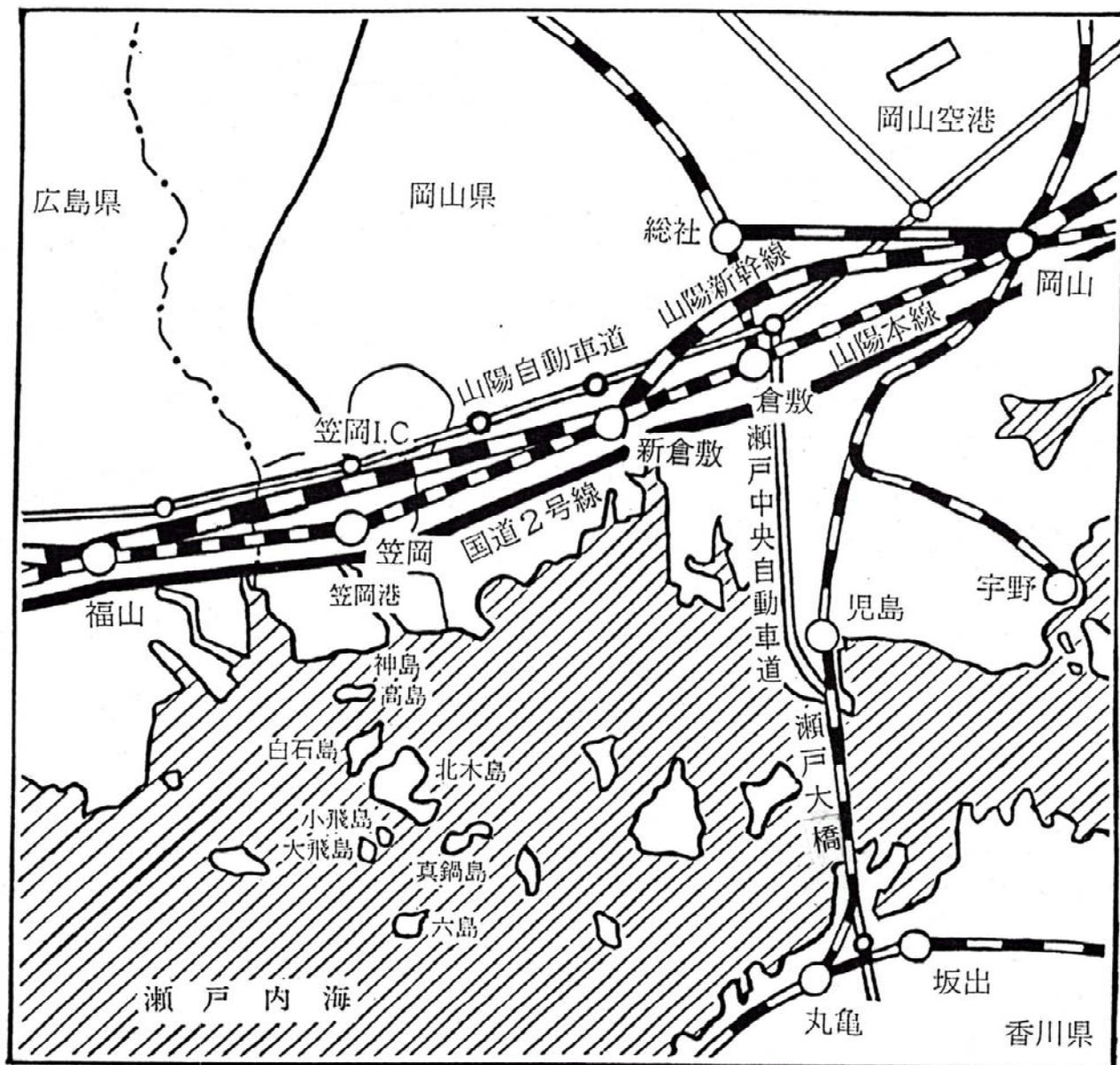
発 生 日 年 月 日	種 別	気象値 (mm)	人の被害者 (人)		家 屋 被 害 (戸)						土 木 被 害 (力所)				農 地 被 害 (a)			
		雨 量	死 者 行 方 不 明 者	負 傷 者	全 壊	半 壊	流 出	一 部 損 壊	床 上 浸 水	床 下 浸 水	橋 梁 流 失	道 路 破 壊	堤 防 決 壊	山 崩	流 出		冠 水	
															田	畑	田	畑
元. 8. 2	台 風 12 号	76	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
9. 2 ~ 9. 3	大 雨	88	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-
2. 9. 7	大 雨	52	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9. 19	大 雨	193	-	1	-	-	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3. 6. 13	大 雨	38	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3. 7. 4 ~ 7. 5	大 雨	87	-	-	-	-	-	-	1	2	-	13	-	-	-	-	-	-
3. 7. 12 ~ 7. 13	大 雨	50	-	1	-	1	-	1	1	29	-	5	-	-	-	-	-	-
3. 9. 27 ~ 9. 28	台 風 19 号 強 風 高 潮	-	-	-	-	3	-	-	5	129	-	-	-	-	2力所 400	-	-	-
4. 8. 8	大 雨	49	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
5. 6. 28 ~ 6. 29	大 雨 雷 水 害	96	-	-	-	-	-	-	-	25	-	18	1	-	-	-	30	-
5. 7. 2 ~ 7. 3	〃	78	-	-	-	-	-	-	-	10	-	7	1	4	-	-	-	-
5. 9. 3 ~ 9. 4	暴 風・波 浪 高 潮・大 雨 水 害	54	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-
7. 7. 3	大 雨 水 害 警 報	116	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
8. 7. 6	暴 風 波 浪 警 報	66	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
9. 7. 12 ~ 7. 13	大 雨 水 害 警 報	97	-	-	-	-	-	-	-	14	-	6	-	9	-	-	-	-
9. 8. 5	大 雨 水 害 警 報	66	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-
9. 9. 16	大 雨・水 害 暴 風・波 浪 高 潮 警 報	98	-	-	-	-	-	1	12	80	-	-	-	-	-	-	-	-
10. 10. 17	暴 風・波 浪 高 潮 警 報	96.5	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
11. 6. 29 ~ 6. 30	大 雨・水 害 防 警 報	53	-	-	-	-	-	1	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-

資料：総務課

発 生 年 月 日	種 別	気象値 (mm)	人の被害者 (人)		家 屋 被 害 (戸)						土 木 被 害 (力所)				農 地 被 害 (a)				
		雨 量	死 者 行 方 不 明 者	負 傷 者	全 壊	半 壊	流 出	一 部 損 壊	床 上 浸 水	床 下 浸 水	橋 梁 流 失	道 路 破 壊	堤 防 決 壊	山 崩	流 出		冠 水		
															田	畑	田	畑	
12. 10. 6	鳥取県西部 地 震 震 度 5 弱		-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13. 3. 24	芸 予 地 震 震 度 4 弱		-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
13. 6. 19 ~6. 20	大 雨 ・ 雷 洪水注意報		-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	3	-	-	10	-	-	
13. 8. 20 ~8. 21	強 風 ・ 波 浪 高潮注意報		-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
14. 6. 18	水 害	35.5	-	-	-	-	-	-	1	26	-	-	-	-	-	-	-	-	
16. 8. 30 ~8. 31	平 成 16 年 台 風 第 16 号		-	2	1	-	-	-	595	439	-	-	-	-	-	-	-	-	
16. 9. 7	平 成 16 年 台 風 第 18 号		-	-	-	-	-	-	-	34	-	-	-	-	-	-	-	-	
16. 10. 20	平 成 16 年 台 風 第 23 号		-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
17. 9. 6 ~9. 7	平 成 17 年 台 風 第 14 号		-	-	-	-	-	-	1	46	-	-	-	-	-	-	-	-	

資料：総務課

## 8 周辺都市の距離と所要時間



	倉敷	岡山	福山	坂出	大阪	東京
鉄道 (笠岡駅)	27.8km	43.7km	14.6km	94.2km	220.2km	776.6km
	26分	41分	14分	1時間47分	1時間22分	4時間26分
	山陽本線	山陽本線	山陽本線	山陽本線 瀬戸大橋線	山陽本線 新幹線	山陽本線 新幹線
陸路 (笠岡I.C.)	倉敷ICまで 27.7km	岡山ICまで 43.3km	福山東ICまで 11.6km	坂出ICまで 70.5km	中国吹田ICまで 211.7km	東京ICまで 725.8km
	21分	33分	13分	53分	2時間40分	9時間10分
	山陽自動車道	山陽自動車道	山陽自動車道	山陽自動車道 瀬戸中央自動車道	山陽自動車道 中国自動車	山陽自動車道 名神・東名高速道路

## 9 笠岡の歴史

古 代 有史以前大部分が海であったが、海水位の低下によって陸地になったところへ、隅田川、今立川、吉田川などから流出した土砂の堆積によって現在の地形が作られた。

大 和 時 代 笠岡の地名は、応神天皇の御代吉備氏の一族・鴨別命(かものわけのみこと)が「くにのみやつこ国造」に封じられ、その子孫が土着して代々「笠氏と称して、氏族集団「笠の国」を形成していたと考えられ、その「笠の国」の遺称であるといわれている。大化の改新によって国・郡・郷の制度が行われ、現在の笠岡市は小田郡甲弩郷(北川・新山)、いあすな魚渚郷(今井・金浦・城見・陶山・大井・吉田・神島・神島外浦・白石島・北木島・真鍋島)、浅口郡大島郷(大島・西大島・西大島新田)に分かれていた。また、ようすな西浜の地名が現存しているのは魚渚郷の名残であろう。

平安鎌倉時代 平安時代の中期、庄園が興って笠岡は備中国陶山庄の内になった。庄官は陶山氏であって、笠氏の子孫と考えられている。

鎌倉時代から陶山氏は陶山庄の地頭職となり、はじめ金浦に築城したが、次いで笠岡に移り隅田川の河口を埋めて市街地をつくり、また港湾の施設整備を行った。

室 町 時 代 南北朝の争乱を経て室町時代の末期に至るまで、陶山氏によって支配された。

天文年間、伊予能島の領主村上氏は笠岡に侵攻して陶山氏を滅ぼし、弘治元(1555)年、巖島合戦の功により笠岡ほか8箇村一千貫を領有し、笠岡に高松城を築いた。いまの古城山公園がその城跡である。

江戸時代 慶長5 (1600)年、関ヶ原の役後は徳川氏の直轄となり、元和2 (1616)年松山の池田氏、元和5 年福山の水野氏の領地となり、大いに山野の開墾・干拓工事・港湾の整備も行われた。

延宝2 (1674)年には、干拓によって富岡新田が生まれ、天和2 (1682)年独立村となった。

元禄11(1698)年、再び幕領に編入されて笠岡に代官所が設けられ、その支配下となった。以来170年にわたって代官政治が行われ、更送された代官は実に50人の多きに及んだが、特筆すべき代官として井戸平左衛門は享保17(1732)年、西日本一帯が大飢饉となった時、田租を免じ私財を投じると共に、官金を拠出して領民を救済したこと、又甘藷の移植栽培によって凶年に備えたことにより、人々はその徳を慕い芋代官として敬仰した。又寛政9 (1797)年、代官早川八郎左衛門によって、郷校「敬業館」が創立されて、地方教育の振興が図られたことより、小寺清先・小寺廉之・関梟翁などの学者を輩出した。

近代 明治元(1868)年5 月 倉敷県に属したが、明治4 年11月 倉敷県が廃され、備中一円と備後の一部とによって深津県が設置され、その管轄となった。

翌5 年6 月7 日、深津県は小田県と改められ、同県の県庁が笠岡に置かれた。小田県は明治8 年岡山県となり、小田県庁は廃止されたが、同11年小田郡役所が笠岡に置かれたため、再びこの地方の中心地として脚光を浴びることとなった。

明治22(1889)年町村制の施行により、笠岡村が富岡村と合併したと同様に、現笠岡市域内の村々も合併して、39箇村から13箇村に再編された。

笠岡村は山陽鉄道開通の年、明治24年10月23日町制を施行し、以降60年間笠岡町は、繊維・化学工業の進展、井笠鉄道の開通によって、備中地方の産業・交通・文化の要衝として発達した。

現代 昭和26 (1951) 年4 月1 日 今井村を編入、翌27 年4 月1 日 金浦町と合

併して市制を施行した。

昭和 28 年 10 月 1 日 城見村・陶山村・大井村・吉田村・新山村・神島内村の 6 箇所を編入、昭和 30 年 4 月 1 日 神島外町・白石島村・北木島町・真鍋島村・大島村（柴木地区を除く）の 5 箇所を編入、さらに昭和 35 年 4 月 1 日北川村を編入して、面積 117.9 平方キロ、人口 73,232 人、世帯数 16,604 の県西南部中心都市となった。

平成 2 年 3 月に完成した国営笠岡湾干拓事業は、1,191ha の広大な土地を生み出し、その完成に合わせて、「おかやま食と緑の博覧会」が開催された。この笠岡湾干拓地では、畜産・畑作の産地づくりを目指し本格的営農が開始されている。

平成 3 年 10 月には全国初の農道離着陸場、平成 6 年 3 月には、緑と水に親しむことのできる「かさおか太陽の広場」が完成した。そして、平成 7 年 8 月から 9 月まで笠岡湾干拓地内笠岡地区農道離着陸場を中心に、アジア初の模型航空世界選手権 1995 が開催された。

平成 11 年 10 月 21 日に、国際交流の一環としてスウェーデンのモーピロンガとは福祉交流都市として、マレーシアのコタバル市とは産業交流都市として、相互理解と友好と親善を深め、友好握手都市縁組を結んだ。

平成 11 年 12 月に、昭和 47 年から事業開始された笠岡の表玄関の整備である駅前土地区画整理事業の面的整備も完了し、安全性・利便性・快適性を向上させた新たな街並みに生まれ変わっている。

平成 14 年 4 月 1 日には市制施行 50 周年を迎え、市民とともに各種イベントを行い節目の年を祝った。

現在「みんなで築く生活元気都市」を目指して第 5 次笠岡市振興計画を進行しており、平成 20 年 3 月には「笠岡市自治基本条例」を制定し、市制と行政とが協働して自治運営を行い、「住んでいてよかったと思えるまち」そして「活力ある福祉都市」に向けて各種の施策を展開している。